

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

1 適用範囲

本資料は、バックホウを用いて行う以下のいずれかに該当する小規模な土工に適用する。ただし、共同溝工、電線共同溝工、情報ボックス工（ダンプトラック運搬を除く）および光ケーブル配管工（ダンプトラック運搬を除く）には適用しない。

- ・ 1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 程度までの掘削、積込みおよびそれらに伴う運搬作業
- ・ 1 箇所当たりの施工土量が 100m³ 程度まで、または平均施工幅 1 m 未満の床掘りおよびそれに伴う埋戻し、舗装版破碎積込（舗装厚 5 cm 以内）、運搬作業。

また、適用土質は、土砂（砂質土および砂、粘性土、レキ質土）とする。

なお、「1 箇所当たり」とは目的物（構造物・掘削等）1 箇所当たりのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を 1 箇所とする。

2 機械経費

2-1 機械経費

小規模土工（ICT）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

①小規模土工（ICT）

作業の種類	作業の内容	機械名	規格	摘要
掘削積込 積込み	標準	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	
	上記以外	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	
舗装版破碎積込	—	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	
床掘り	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型、 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	
埋戻し	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型、 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	はねつけ
		タンパおよびランマ	質量60～80kg	締固め
運搬	—	ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4 t 積級	バックホウ山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）の場合
		ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 2 t 積級	バックホウ山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）の場合

（注）作業の内容による上記以外とは、構造物および構造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所および1箇所当たりの施工土量が50m³以下の箇所とする。

2-2 ICT 建設機械経費加算額

2-2-1 損料加算額

ICT 建設機械経費損料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

（1）小規模土工（ICT）

対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型）

損料加算額：5,470 円／日

2-3 その他

ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

2-3-1 保守点検

ICT 建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 小規模土工（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当たり標準作業量(m3/日)}}$$

2-3-2 システム初期費

ICT 施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

(1) 小規模土工（ICT）

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT 建設機械経費損料加算額を含む

3 三次元設計データの作成費用

三次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、当該工種に係る必要額を適正に積み上げるものとする。また、三次元起工測量を実施した場合は、三次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

4 三次元出来形管理・三次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

5 積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、「[ICT 建設機械使用割合 100%]」を用いて積算するものとする。

【参考】

1 各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 1.1 機種を選定

作業の種類	作業の内容	機械名	規格	摘要
掘削積込 積込み	標準	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m3（平積0.2m3）	
	上記以外	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m3（平積0.1m3）	
舗装版破碎積込	—	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m3（平積0.1m3）	
床掘り	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型、 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m3（平積0.2m3）	
埋戻し	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型、 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m3（平積0.2m3）	はねつけ
		タンバおよびランマ	質量60~80kg	締固め
運搬	—	ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4 t 積級	バックホウ山積0.28m3 (平積0.2m3) の場合
		ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 2 t 積級	バックホウ山積0.13m3 (平積0.1m3) の場合

(注) 作業の内容による上記以外とは、構造物および構造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所および1箇所当たりの施工土量が50m3以下の箇所とする。

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

2 掘削積込作業及び積込作業

2-1 日当り施工量

バックホウによる掘削積込および積込作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 2.1 日当り施工量 (1日当り)

作業の内容	名称	規格	単位	地山の掘削積込	ルーズな状態の積込み
標準	バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	m ³	40	45
上記以外	バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	//	16	23

3 舗装版破碎積込作業

3-1 日当り施工量

舗装版破碎積込作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.1 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	m ³	23

4 床掘作業

4-1 日当り施工量

バックホウによる床掘作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 4.1 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	m ³	34

4-2 補助労務

床掘作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 4.2 床掘補助労務 (10m³当り)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.3	基面整正および浮き石除去含む

5 埋戻作業

5-1 適用範囲

機械による埋戻し（敷均し含む）および締固めの一連作業に適用する。

5-2 日当り施工量

バックホウによる埋戻作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

表 5.1 日当たり施工量 （1日当たり）

名称	規格	単位	数量
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	m ³	40
タンパ運転	質量60～80kg	〃	36

（注）上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれる。

5-3 補助労務

埋戻作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 5.2 埋戻作業補助労務（10m³当たり）

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.8	敷均しおよびタンパ締固め補助

（注）上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれる。

6 運搬作業

6-1 施工歩掛

運搬作業の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 6.1 ダンプトラック運搬日数（土砂） （10m³当たり）

積込機種・規格	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ） バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）													
積込機種・規格	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕4t積級													
D I D 区間：無し														
運搬距離（km）	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	10.0 以下	13.0 以下	19.0 以下	35.0 以下	60.0 以下
運搬日数（日）	0.2	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5	0.55	0.6	0.8	0.9	1.1	1.5	2.3
D I D 区間：有り														
運搬距離（km）	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	27.0 以下	60.0 以下
運搬日数（日）	0.2	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5	0.55	0.6	0.8	0.9	1.1	1.5	2.3

表 6.2 ダンプトラック運搬日数（土砂） （10m³当たり）

積込機種・規格	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）													
積込機種・規格	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級													
D I D 区間：無し														
運搬距離（km）	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	28.5 以下	60.0 以下
運搬日数（日）	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.5	1.8	2.3	3.0	4.5
D I D 区間：有り														
運搬距離（km）	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	11.0 以下	15.0 以下	24.0 以下	60.0 以下
運搬日数（日）	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.5	1.8	2.3	3.0	4.5

- （注）1. 上表は地山10m³の土量を運搬する日数である。
 2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
 3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途計上する。
 4. D I D（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
 5. 運搬距離が60kmを超える場合は、別途考慮する。

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

6-2 補正係数（K）

舗装版破碎積込作業歩掛に対する適用土質（アスファルト塊）による補正は、次式により行うものとし、補正係数（K）の値は次表とする。

$$10\text{m}^3 \text{ 当り 運搬日数} = \text{土砂の } 10\text{m}^3 \text{ 当り 運搬日数} \times (1 + K)$$

表 6.3 補正係数（K）

補 正 係 数	+0.30
---------	-------

7 単価表

(1) バックホウ掘削積込 10m³ 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）または 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	日	10/D	表3.1 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

(注) D：日当たり施工量

(2) バックホウ積込 10m³ 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）または 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	日	10/D	表3.1 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

(注) D：日当たり施工量

(3) バックホウ舗装版破碎積込 10m² 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	日	10/D	表4.1 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

(注) D：日当たり施工量

(4) バックホウ床掘 10m³ 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人		表5.2
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	日	10/D	表5.1 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

(注) D：日当たり施工量

ICT 活用工事積算要領（小規模土工）

（５）バックホウ埋戻し 10m³ 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普通作業員		人		表6.2
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	日	10/D	表6.1 機械損料
タンパ運転	質量60～80kg	〃	10/D	
諸雑費		式	1	
計				

（注）D：日当たり施工量

（６）ダンプトラック運搬 10m³ 当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ダンプトラック運転	オンロード・ディーゼル 4 t 積級または2 t 積級	日		表7.1～表7.3 機械損料
諸雑費		式	1	
計				

（７）機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クローラ型）運転	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →40 機械損料数量→1.57
〃	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →24 機械損料数量→1.32
〃	後方超小旋回・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →40 機械損料数量→1.57
ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4 t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →34 機械損料数量→1.17
〃	オンロード・ディーゼル 2 t 積級	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →23 機械損料数量→1.17
タンパおよびランマ	質量60～80kg	機-23	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →6 機械損料数量→1.62 主燃料 →ガソリン